

1 目指す学校像

帝塚山学院が設立にあたり提唱した「力の教育」を実現し、意志の力、情の力、知の力、躯幹の力といった、広い意味の力の漲った強い人物を育成する。

1. 活力ある人間の育成
2. 創造性豊かな人間の育成
3. 協調性ある人間の育成
4. 国際感覚豊かな人間の育成 を目標とする。

2 中期的目標

1 教育力の強化

(1) 進路指導

- ① 生徒一人ひとりの進路実現
- ② 現役国公立大学合格者数の増加

(2) 学習指導

- ① 2020 年大学入試制度改革に向けて、英語検定試験対策の実施
- ② AL 型授業の導入
- ③ ICT 機器の導入

(3) 生徒指導

- ① 基本的な生活習慣の確立、安心安全な学校生活の充実を図る。
- ② 清掃の徹底、挨拶の励行、遅刻の防止
- ③ いじめの防止、携帯電話の使用方法について
- ④ 交通安全指導の強化
- ⑤ 生徒指導の強化

(4) 特別活動

- ① 自主性のある活動の促進、学校行事・課外クラブ活動の充実
- ② キャリア教育の充実と大学見学の実施

2 組織力の強化

3 財務基盤力の強化

(1) 入学生の確保

(2) キャンパスの整備

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校協議会委員からの意見
<p>【学校運営】</p> <p>「保護者へ授業を公開している」95%（昨年度より6%増）</p> <p>「入学者を確保するための十分な募集広報活動を、組織的に行っている」95%（昨年度より4%増）</p> <p>「学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている」88%（昨年度より2%減）</p> <p>「年間を通じた教育計画（シラバス）を各教科別に立てて実践している」83%（昨年度より3%減）</p> <p>「教育課程は学習指導要領に沿っている」83%（昨年度より9%減）</p> <p>などは昨年度に引き続き高い評価を得ている。授業参観（4月、11月）、学校説明会、体験入学等を引き続き実施した結果、高い評価が得られた。</p> <p>一方、「教科間・コース間で教育方針の情報交換の機会があり、相互理解が図れている」43%（昨年度より3%減）は評価が低い。昨年度から始めた授業見学週間を利用して、教員の授業を相互に見学することにより、情報交換の機会を増やすことができると考える。</p> <p>【教育内容】</p> <p>「図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる」82%（昨年度と増減なし）</p> <p>「職業体験や卒業生による講演会を実施し、キャリア教育の充実に努めている」82%（昨年度より1%増）</p> <p>「部活動は活発に行われている」75%（昨年度より6%減）などは引き続き評価を得てい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 泉ヶ丘という学校はどのような学校なのか、どのように生徒たちに語っているか。生徒にインタビューしたときに「～のような学校です」という答えが返ってくるような教育が必要ではないか。 ・ 併願入学の生徒も増えており、入学当初は学校のことを誇りに思っていない生徒が存在するなかで、どのように誇りを持たせるか。 ・ コンプライアンス事案が非常に増えてきている。また、SNSも普及、保護者の方々の意識や価値観も変化しており、教員の質が非常に重要となる。 ・ この1年で学校がよくも悪くもかなり変化したという認識の方がほとんどである。

るが、一方で、「他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている」76%（昨年度より6%減）

「海外留学制度が有効に実施されている」76%（昨年度より15%減）は数値が高いものの昨年度からの減少率が大きいですが、今年度から創設された国際教養部により今後は数値の上昇が期待できる。

「生徒に清掃、校内美化意識の向上が図られている。また、施設・設備を大切にすることを育成している」33%（昨年度より5%増）

「ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。」46%（昨年度より9%減）からも分かるように、清掃、美化への指導に甘さは見られるものの、中高生徒会を中心に昨年度から開始したトイレ掃除活動、校内美化運動を引き続き行うことで数値が高まることが期待できる。

【生徒指導】

「いじめ問題について、保護者と連携をとりながら組織的に対応できる体制がある」75%（昨年度より11%増）

「アンケートを実施し、いじめに対して防止に努めている」81%（昨年度より7%増）

「登下校に際し、生徒指導は円滑におこなわれている」82%（昨年度より12%増）

「補講など生徒の成績向上のための措置は充分になされている」85%（昨年度より7%増）

などは昨年度より肯定率が10%前後高くなっている。登下校の際は校門付近、泉ヶ丘駅周辺での指導を強化したためこのような結果となった。

<p>また、「生徒の生活指導について、学校の一貫した方針に従い、組織的に対応している」60%（昨年度より1%増）はまだまだ低い評価である。生徒指導部を中心に組織的に対応すべく、改善を必要である。</p>	
---	--

3 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み	評価指標	自己評価	課題と改善策
教育力の強化	1 進路指導 ・生徒一人ひとりの進路実現 (現役国公立大学合格者数の増加)	・通常授業を充実させる。 ・通常補習、夏期セミナー、冬期セミナー、2次直前対策講座を充実させる。	「学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げている」(保護者アンケート) 目標肯定率：80%	肯定率 中 61.7% 高 63.4% (29年度は中学 59.2% 高 57.4%)	主に年 2 回の授業見学週間に教員間で授業の見学を行い、意見交換を行うことで授業を改善する。
	2 学習指導 ・2020 年大学入試制度改革に向けて、英語検定試験対策の実施 ・AL 型授業の導入	・オンライン英会話を積極的に導入し、聞く力・話す力の向上を目指す。 ・AL 型授業を中学の総合学習を中心に実	①「補習など生徒の成績向上のための措置は充分になされている」(自己評価アンケート) 目標肯定率：80% ②「補習や講習は統合的に整備され、多様な進路希望に対応できる体制になっている」(保護者アンケート) 目標肯定率：70%	①の肯定率 85% (29年度 78%) ②の肯定率 中 62.4% 高 66.8% (29年度は中学 64.9% 高 61.7%) ①は昨年度の設定した目標 80% を超えることができた。しかし、②は目標値 70% には到達せず、依然 60% 台であった。	昨年度と同様、自己評価アンケートと保護者アンケートの肯定率に乖離が見られる。学年団と進路指導部の連携により、適切な講座を設定する。
			「補習など生徒の成績向上のための措置は充分になされている」(自己評価アンケート) 目標肯定率：80%	肯定率 85% (29年度 78%) 昨年度から 7% 上昇し、目標を達成した。	今年度より発足した国際教養部を中心に、オンライン英会話を引き続き行い、各級の取得割合を上昇させる。
			「教員が計画的に校外研修を受ける	肯定率 48% (29年度 49%)	教科主任主導で教科会議の

	<p>・ ICT 機器の導入</p>	<p>施する。</p> <p>・ プロジェクタを使用する授業を推進する</p>	<p>体制が整っている」(自己評価アンケート) 目標肯定率：55%</p> <p>「ICT 機器を利用して授業を行っている」(自己評価アンケート) 目標肯定率：75%</p>	<p>AL 型授業は中学を中心に行い、授業見学後は意見交換も行っているが、肯定率には変化がみられない。</p> <p>肯定率 78% (29 年度 65%) 30 年度は高 2 まで Classi が導入されたこともあり、肯定率は順調に上昇した結果、目標を達成した。</p>	<p>時間を使って、情報交換を行う。</p> <p>令和元年度は全学年で Classi を導入される予定で、引き続き情報公開を含めた ICT 化を促進する。</p>
<p>3 生徒指導</p> <p>・ 基本的な生活習慣の確立</p> <p>・ 清掃の徹底、挨拶の励行、遅刻の防止</p> <p>・ 安心安全な学校生活の充実を図る</p>	<p>・ 大掃除での項目を設定</p> <p>・ 生徒会による毎朝の挨拶運動を行う。</p> <p>・ 定期テスト間に 3 回以上遅刻した生徒に対し、早朝登校指導を行う。</p> <p>・ 教育相談ケーススタディ会議を実施。アドバイザーからの助言を基に、不登校生徒のケアを行う。</p>	<p>「学校は規則正しい生活習慣が身に付くように指導している」(保護者アンケート) 目標肯定率：80%</p> <p>「学校は保護者の悩みや相談、問い合わせに丁寧に対応している」(保護者アンケート) 目標肯定率：80%</p> <p>「カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある」(自己評価アンケート)</p>	<p>中 78.7% 高 81.3% (29 年度は中学 72.1% 高 79.2%) 肯定率は上昇し、高校は目標肯定率を達成した。</p> <p>中 78.0% 高 81.2% (29 年度は中学 78.7% 高 76.5%)</p> <p>肯定率 79% (29 年度 80%)</p> <p>ケーススタディ会議は月に 1 回</p>	<p>毎週月曜日の中学全校集会を引き続き行う。高校は月 1 回の全校集会により、マナーの徹底を図っていく。</p> <p>今後も月 1 回のケーススタディ会議を開催する。支援体制の再構築を再検討する必要がある。</p>	

	<p>・いじめの防止，携帯電話の使用方法について</p>	<p>・いじめ対策アンケートを実施する。 ・生徒会や教員による啓蒙活動を行う。</p>	<p>目標肯定率：85%</p> <p>「アンケートを実施し，いじめに対して防止に努めている」（自己評価アンケート） 目標肯定率：80%</p> <p>「学校は生徒からの悩みや相談に親身になって対応している」（保護者アンケート） 目標肯定率：80%</p>	<p>の割合で実施し，事例を基に情報の共有を行った。</p> <p>肯定率 81% (29年度 74%) 肯定率が上昇し，目標肯定率を達成した。</p> <p>中 68.8% 高 68.6% (29年度は中学 69.8% 高 64.6%) 中学は変化なし、高校は若干の上昇がみられた。</p>	<p>全校集会や HR 時に、いじめに対する意識改革に努める。</p> <p>今後も生徒との面談を行い、コミュニケーションをとる時間を増やすようにする。</p>
<p>4 特別活動 ・自主性のある活動の促進，学校行事・課外クラブ活動の充実</p>	<p>・学校行事への意欲的な取り組みや生徒会活動を活性化させる。</p> <p>・課外クラブ活動への積極的な参加を呼びかける。</p>	<p>「生徒会・自治会活動を通じて，生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している」（自己評価アンケート） 目標肯定率：60%</p> <p>「部活動は活発に行われている」（自己評価アンケート） 目標肯定率：85%</p> <p>「部活動は学習との両立について配</p>	<p>肯定率 51% (29年度 50%)</p> <p>肯定率 75% (29年度 81%) 課外クラブへの参加率は 70%と例年並みである。</p> <p>中 69.2% 高 65.8% (29年度は中学</p>	<p>生徒会担当教員のサポートの下、生徒会長を中心に活性化に取り組む。</p> <p>課外活動と学習との両立のため、完全下校の時刻を 18：30 とし、今後も徹底する。</p>	

	<p>・キャリア教育の充実と大学見学の実施</p>	<p>・中3での職業体験の内容を精査する。 ・卒業生によるキャリア教育講演会を実施する。</p>	<p>慮がなされているとともに、生徒に十分な指導が行われている」(保護者アンケート) 目標肯定率：80%</p> <p>「職業体験や卒業生による講演会を実施し、キャリア教育の充実に努めている」(自己評価アンケート) 目標肯定率：85%</p>	<p>58.9%高 59.1%) 中高とも肯定率の上昇が見られたが、目標値には到達しなかった。</p> <p>肯定率 82% (29年度 81%)</p>	<p>中学部会、高校部会を中心に してキャリア教育の整備を行っていく。</p>
組織力の強化	組織力の強化	・予備校主催の教員セミナーへ参加する。	<p>「生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある」(自己評価アンケート) 目標肯定率：80%</p> <p>「学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている」(自己評価アンケート) 目標肯定率：75%</p>	<p>肯定率 68% (29年度 72%) 希望する教員がセミナーに参加したが、肯定率が低下した。</p> <p>肯定率 76% (29年度 67%) 肯定率が約 10% 上昇し、一昨年度の 数値まで回復した。</p>	<p>セミナー参加後の情報共有がうまくいっていない。教科主任を中心に 伝達方法の確立が必要である。</p>
財務基盤力の強化	入学者の確保	・地域別のミニ説明会などの広報活動を実施する。	「入学者を確保するための十分な募集広報活動を組織的にやっている」	<p>肯定率 95% (29年度 91%) 昨年、一昨年と同様 90%以上と</p>	<p>引き続き高い割合を維持できるように、 広報活動を行って</p>

			(自己評価アンケート) 目標肯定率：95%	いう高い割合を保っている。	いく。
キャンパスの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの洋式化 ・食堂のリニューアル ・柔道場、剣道場のエアコン設置 ・ごみ集積場の整備 ・教室への網戸設置 	「施設・設備は、よく整備されている」(保護者アンケート) 目標肯定率：90%	中 86.4% 高 84.6% (29年度は中学 76.2% 高 76.8%)	食堂のテーブル、イスのリニューアルを行った。今後は、メニューや厨房のリニューアルを行う。	

※ 自己評価アンケート、保護者による学校評価アンケートは 1：達成できている 2：ほぼ達成できている 3：あまり達成できていない 4：まったく達成できていないの 4段階に分けて回答。肯定率とは、全ての回答における 1 と 2 の回答の割合のこと。

肯定率〔%〕 = (1 と 2 の回答数 / 全回答数) × 100 で計算した。